原発〝命と共存できない〟

どくほう特報

28年闘い珠洲の建設計画凍結

「逃げるのは無理」被災で改めてわかる危険性

能登半島地震で多数の倒壊や道路の陥没などを被った石川県珠洲市。もし、この地に原子力発電所が建設されていたら…。かつて、原発建設計画に翻弄（ほんろう）された同市・高屋町で反対運動のリーダー的存在だった円龍寺（真宗大谷派）の塚本真如住職（78）は被災した今、「原発と命とは共存できるものではなかった」と振り返ります。（田中智己）

能登半島 1.1地震

1月1日、早夕の地震でぐらついていた塚本さんは、強い揺れを受け、本堂の様子が心配になり確認に行ったといいます。2回目の揺れのときは、立っていられず「つぶれないでくれ」と願うしかなかったと話します。

塚本さんが暮らしていた高屋町は、市街につながるすべての道路が寸断されて孤立。海岸は隆起し、漁港が使えなくなり、船も出すことができない孤立集落となっていました。塚本さんは、もし、原発が稼働していて重大事故が発生していたら「逃げることはまず無理だ」と話します。

孤立集落となった高屋町では1月10日にようやく市街につながる道路の一つが復旧し、翌日に避難所の約9割の住民が脱出。塚本さんが避難先の金沢市の旅館に着いたのは12日になってのことでした。最後に残った10人のうちの一人、川端さん（71）は「雪が降ったら避難もできなくなる」と当時の様子を語ります。

倒壊や陥没した建物や道路を撤回した後は、市役所まで1時間ほど。いまだ建物や崩れた道に砂利を敷いただけの道路の状況が続いています。

命がけで反対

中部、北陸、関西の各電力3社による原発建設計画が表面化したのは1975年のことです。以来、珠洲市と西日本の電力会社が原子力施設の立地可能性調査の受け入れを表明し、翌年3月に関電が同町で調査を実施しました。3社が2003年12月5日に珠洲原発計画の凍結を発表するまでの28年間、原発建設計画をめぐり推進派と反対派が町を二分した激しいたたかいの日々が続きました。

日本共産党の新谷則弘・元珠洲市議は、「珠洲原発の建設計画は、住民が命がけのたたかいによって止めた」と話します。80年代には、高屋町で立地可能性調査を強行した際には、市役所での40日間の座り込みを行ったといいます。

2月20日、同党の新谷氏が高屋町を訪れた際は、地元住民から、隆起した地域の様子や「地震を経て、いまとなってはなくて良かった」と話します。

日本原子力研究所の元研究員、滝谷紘一さん（元中央大学教授）は、「能登半島地震の規模の地震が起こった場合、原発の冷却機能を喪失したと指摘し、「複数の原発で外部電源を喪失し、これに代わるディーゼル発電機が引き続く地震によって停止すれば、全電源喪失が起こり、炉心の冷却ができなくなる」と話します。

日本共産党は、能登半島地震で起こった志賀原発の変圧器のトラブルなどを指摘し、原発の危険性を明らかにするとともに、志賀原発（志賀町）の再稼働を止めるよう求めています。

北陸電力は24年1月の地震で志賀原発に被害が出たことを受け、再稼働の審査の見通しが立たない状況に至った背景を説明しました。

ゼネコン献金

塚本さんは原発建設計画の反対運動は、「お金でなく、命の問題だった」と振り返ります。原発立地計画をめぐり、関電と北電が89年5月に高屋町で強行した「立地可能性調査」。実際は電力会社が原発建設に向けた事前調査でしたが、住民の抗議で同年6月、調査は中断に追い込みました。

一方では清水建設などのゼネコンによる原発予定地の代理買収が行われていたといいます。この問題は国会でも取り上げられ、日本共産党の緒方靖夫参院議員（当時）が92年10月27日の参院決算委員会で、関電とゼネコンの癒着を指摘し、不明朗な土地取引の実態を明らかにしました。

原発建設計画が凍結に至ったことで、「珠洲に原発がなくて良かった」との声が広がっています。

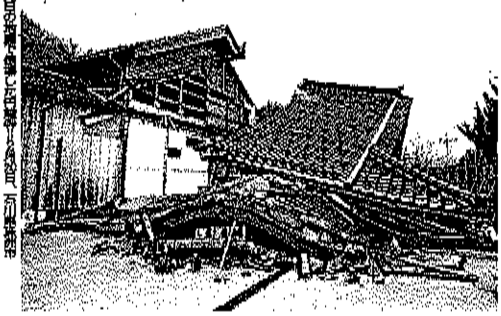
電力会社は、このような「大地震」を相手にしなければならないのかと話しています。

高屋町で原発反対運動を始めたばかりのとき、住民は慣れていない反対運動に戸惑い、誰もが手を結ばずにいたといいます。

塚本さんが七尾市の寺の友人を訪ねた際、友人から「なんで反対するんや」と問われ、「日本をダメにした原発と結託する相手に反対運動をする」と答えたといいます。

「負けてもともと」と始めた反対運動。「巨大な相手に反対運動を挑み続けた塚本さんを支えていた思いは何だったのか」。

珠洲原発凍結から20年。いま「珠洲に原発がなくて良かった」との声が広がっています。能登半島地震は私たちにあらためて原発の持つ危険性を突きつけています。



倒壊した住宅＝1月9日、石川県珠洲市

原発建設予定地とされた高屋町の海岸。地震で隆起した海岸が広がる＝2月20日、石川県珠洲市

反対運動のリーダー的存在だった円龍寺（真宗大谷派）の塚本真如住職

珠洲市内の道路沿いには地震で隆起したマンホールが多数見られる＝2月20日、石川県珠洲市